

# 浜松医科大学 財務レポート 2009 Financial Reports



平成20事業年度  
2008年4月1日～2009年3月31日

浜松医科大学は、

- 1) 優れた医療人を教育すること(教育)
- 2) 独創的で世界の最先端研究の拠点になること(研究)
- 3) 最善・最高の医療を提供し地域の中核的病院になること(診療)
- 4) 産学官連携など、大学が持つ「知」を社会へ提供、還元すること(社会貢献)  
を使命とし、「教育」、「情報・広報」、「総務」、「研究推進」、「経営」、「病院運営」及び「調査・労務」の7つの企画室を設置し、4名の理事及び3名の副学長を中心に中期目標・中期計画に沿って事業の企画立案を行っています。  
今後についても「多様な資金の確保」、「経費の効率的な使用・管理経費の抑制」、「有効な資源の配分」を推進し、教育、研究、診療及び社会貢献等の質の向上に取り組み、社会に期待される大学を目指していきます。



浜松医科大学長

## 寺尾 俊彦

国立大学法人化後5年が経過し、いよいよ法人化第1期6年間の最終年に入る。5年目の平成20年度も、法人化のメリットを生かした大学運営を行い、戦略的な法人経営体制の確立と効果的運用、戦略的・効果的な資源配分、業務運営の効率化に努め、教育、研究、診療、社会貢献の何れの分野においても成果を上げることができた。

これまでと同様、予算配分は戦略的に行った。また、学長の重点配分経費約4億円等を利用してメリハリの在る予算配分をした。教育・研究環境の充実、労働環境の改善、知的財産活用推進、病理解剖室ホルムアルデヒドばく露防止対策等の衛生管理対策、医療用機械・器具の整備・充実や更新、診療体制を充実させるための人員の増、病棟クランクの配置、看護師用更衣室の整備等が行われた。また、戦略的経費としてプロジェクト研究の推進、若手の萌芽的研究の育成、看護学科研究の推進、国際共同研究の誘致、地域医療や公衆衛生に貢献する社会活動や地域教育活動の推進、等に予算を配分した。

大学の活動度の指標でもある外部資金の導入についてみると、受託研究費が昨年度より更に約4億円増加、間接経費も1億2千万円増加した。病院収入も約6億円増加し、健全で安定的な経営ができた。

本学に対する国立大学法人評価委員会の評価も毎年良好である。教職員の皆様をはじめ、多くの方々のご協力、ご支援の賜物であり、この場を借りて感謝申し上げたい。



浜松医科大学理事  
(財務・病院担当)

## 中村 達

財務レポートの作成は、大学の運営・経営が皆様にも分かりやすいように示し、透明性高い経営であること、経営状態は悪くないことをご理解いただくのが主な目的です。教育経費、研究経費、教育研究支援経費などが妥当な数値かと問われると、現場でとても困窮しているようでは妥当ではないかもしれません。また、現金で見た場合、高額なものが導入された翌年は、経費が下がった形になることはある程度はやむを得ないでしょう。損益計算書では減価償却費等の影響などで内容が誤解されることがありますが、いずれにせよ、経費が前年に比べ下がった項目については検討し、翌年にはバランスを考える、あるいは現場で困っているものがないかなどを調査することにして

います。第1期中期目標・計画の5年目に当たる平成20年度は、経営的には大きな問題はありませんでした。大学の運営・経営は現場の皆さんと意見交換を行い、現場の問題を把握して対処することが大切であると思います。平成21年度はさらに上昇傾向にいくよう努力いたします。ご協力よろしく申し上げます。

# 貸借対照表(要約)

貸借対照表は決算日における資産、負債及び純資産を記載し財政状態を明らかにするものです。  
借入金等の負債と国からの出資等の純資産による土地・建物等をもとに教育・研究・診療の業務活動を行っていることがわかります。

(単位:百万円)

資産の部	20年度	19年度	増減(20-19)
土地	6,489	6,489	0
建物	7,411	7,330	81
構築物	264	209	55
工具器具備品	3,547	3,653	▲ 106
図書	977	968	9
その他固定資産	7	9	▲ 2
建設仮勘定	10,604	3,941	6,663
無形固定資産等	71	73	▲ 2
固定資産計	29,375	22,676	6,699
現金及び預金	9,333	7,221	2,112
未収入金 (※1)	2,210	2,089	121
たな卸資産	202	172	30
その他	63	41	22
流動資産計	11,809	9,524	2,285
資産合計	41,185	32,201	8,984

負債の部	20年度	19年度	増減(20-19)
資産見返負債(※2)	3,039	2,209	830
借入金	16,882	11,114	5,768
リース債務	1,303	1,749	▲ 446
運営費交付金債務	420	540	▲ 120
寄附金債務	1,202	1,112	90
前受受託研究費等	279	241	38
未払金 (※3)	5,744	3,868	1,876
預り金	151	155	▲ 4
その他	164	147	17
負債合計	29,189	21,138	8,051
純資産の部	20年度	19年度	増減(20-19)
資本金	5,317	5,317	0
資本剰余金	1,803	1,538	265
利益剰余金			
目的積立金(※4)	1,304	779	525
積立金	2,902	2,401	501
当期末処分利益	667	1,026	▲ 359
純資産合計	11,995	11,062	933
負債・純資産合計	41,185	32,201	8,984

## (資産)

平成20年度末現在の資産合計は前年度比8,984百万円(28%)増の41,185百万円となっています。

主な増加要因としては、建物が基礎臨床研究棟耐震改修等により81百万円(1%)増の7,411百万円となったこと、構築物がサッカー・ラグビー場の人工芝整備等により55百万円(26%)増の264百万円となったこと、建設仮勘定が、附属病院再整備事業に伴う工事中建物の増加等により6,663百万円(169%)増の10,604百万円となったこと、現金及び預金が、附属病院再整備事業の長期借入金等に伴い2,112百万円(29%)増の9,333百万円となったことが挙げられます。

## (負債)

平成20年度末現在の負債合計は8,051百万円(38%)増の29,189百万円となっている。

主な増加要因としては、借入金が、附属病院再整備事業の借入れ等により5,768百万円(135%)増の16,882百万円となったこと、未払金が附属病院再整備事業の工事費用の支払い等により1,876百万円(49%)増の5,744百万円となったこと等が挙げられます。

## (純資産)

平成20年度末現在の純資産合計は933百万円(8%)増の11,995百万円となっています。

主な増加要因としては、資本剰余金が施設費による建物等の取得等により265百万円(17%)増の1,803百万円となったことが、利益剰余金では目的積立金が承認されたことにより525百万円(67%)増の1,304百万円となったこと、積立金が利益処分により501百万円(21%)増の2,902百万円となったことが挙げられます。

## (注)

※1 未収入金 未収附属病院収入でほとんどの額(2,137百万円)は社保・国保への診療報酬請求等分で5月までには入金されるものです。

※2 資産見返負債 資産見返負債とは、運営費交付金、寄附金、補助金などを財源として取得した資産については、取得時に資産と同額の「資産見返負債(それぞれの財源の名称)」を負債に計上し、その資産の減価償却相当額と同額を取り崩し収益計上することで収支均衡に作用する独立行政法人等の独特の勘定科目です。

※3 未払金 業者等への3月末時点での支払未了額で5月末までには全額支払済です。(今年度は病院再整備工事費等の支払により増加しています。)

※4 目的積立金 当期総利益(決算剰余金)のうち現金の裏付けがあり経営努力の結果生じたことを文部科学大臣から承認されることにより、目的積立金として翌事業年度へ繰り越しが可能となります。



# 損益計算書(要約)

損益計算書は事業年度内に実施した事業等により発生した費用と収益を記載し、1年間の運営状況を明らかにするものです。教育、研究、診療等の業務(目的)別に費用を、運営費交付金や附属病院等の財源別に収益を表しています。

(単位:百万円)

費用	20年度	19年度	増減(20-19)
人件費	9,011	8,654	357
教育経費	253	248	5
研究経費	963	923	40
診療経費	7,343	6,834	509
教育研究支援経費	116	149	▲ 33
受託研究費等	868	473	395
一般管理費	353	351	2
財務費用	329	278	51
経常費用計	19,241	17,910	1,331
臨時損失	123	21	102
当期総利益	667	1,026	▲ 359
計	20,032	18,957	1,075

収益	20年度	19年度	増減(20-19)
運営費交付金収益	5,287	5,116	171
授業料等収益	649	653	▲ 4
附属病院収益	12,238	11,639	599
受託研究等収益	878	483	395
寄附金収益	393	409	▲ 16
間接経費収入	75	63	12
施設費収益	22	9	13
資産見返負債戻入	263	316	▲ 53
財務収益	10	9	1
財産貸付収入等	185	204	▲ 19
経常収益計	20,005	18,901	1,104
臨時利益	27	11	16
目的積立金取崩額	0	45	▲ 45
計	20,032	18,957	1,075

## (経常費用)

平成20年度の経常費用は1,331百万円(7%)増の19,241百万円となっています。

主な増加要因としては、診療経費が外来患者数等の増に伴う医療材料費の増及び新病棟移転に伴う医療機器等の整備により509百万円(7%)増の7,343百万円となったこと、受託研究費等が、受託研究及び受託事業の増加に伴い395百万円(84%)増の868百万円となったこと、人件費が、診療業務の向上のため看護師等の増員等により357百万円(4%)増の9,011百万円となったことが挙げられます。

主な減少要因としては、教育研究支援経費(図書館、情報処理センターの経費)のうち、平成20年度は図書を除却額(減価償却のこと下記参照)が平成19年度に比べて少なかったことにより33百万円(22%)減の116百万円となったことが挙げられます。

## (経常収益)

平成20年度の経常収益は1,104百万円(6%)増の20,005百万円となっています。

主な増加要因としては、受託研究等収益が、受託研究及び受託事業等の受入れの増加に伴い395百万円(82%)増の878百万円となったこと、附属病院収益が、外来患者数の増、手術件数の増及び入院・外来単価の向上等に伴い、599百万円(5%)増の12,238百万円となったことが挙げられます。

(※収益の計上額は当該年度の現金の収入額ではなく、事業実施に伴う成果に相当する(研究等に使用した)金額です。)

※ 貸借対照表、損益計算書の端数処理については、百万円未満を切捨てています。合計についても円単位で計算したものを端数処理して百万円未満を切捨てています。



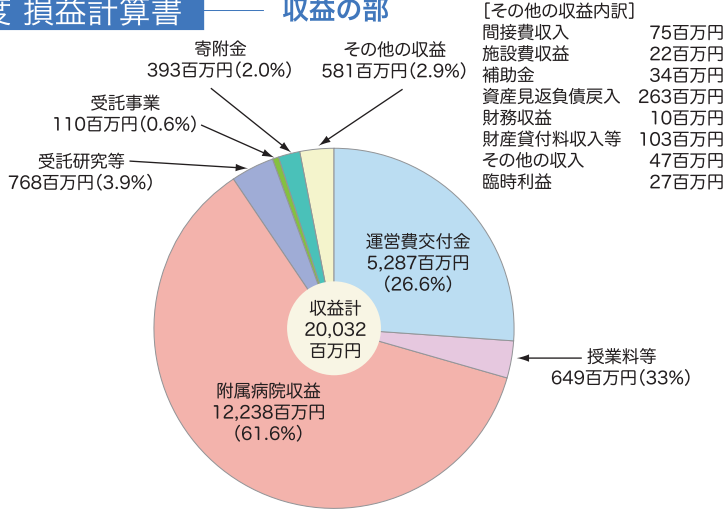
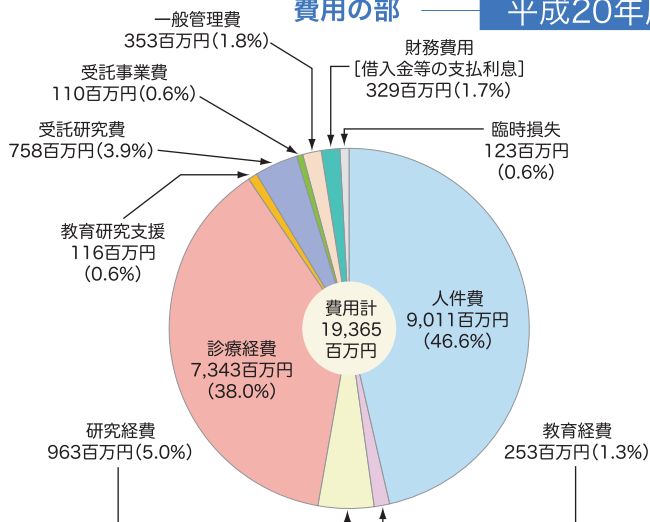
### 【減価償却】

減価償却とは建物、工具器具備品等を購入した場合、購入額全額をその年の費用として計上するのではなく、建物、工具器具備品等を使用している年数(耐用年数)に分けて各年度に費用配分する処理で、使用した経過年数により資産価値が減少していくということです。現金の執行額とは相違が出てくる要因の1つです。

### 【図書と図書費】

図書は償却資産として資産計上されますが、建物、工具器具備品等のように耐用年数に応じて減価償却する処理は行わず、除却時に取得額全額を図書費(損益計算書-費用)に計上することになります。

## 費用の部 平成20年度 損益計算書 収益の部



### 【その他の収益内訳】

間接経費収入	75百万円
施設費収益	22百万円
補助金	34百万円
資産見返負債戻入	263百万円
財務収益	10百万円
財産貸付料収入等	103百万円
その他の収入	47百万円
臨時利益	27百万円

## 平成20年度の主な事業

運営費交付金等による国の支援の外、職員の努力により外部資金及び病院収入等が増加したなかで、効率的な運用を図ることにより下記のような事業を実施することが出来ました。

### 教育に関する事業

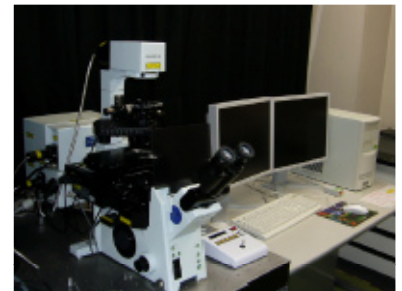
1. 助産学専攻科の設置
2. がん治療における人材育成を目的としたがんプロフェッショナル養成プランに参加
3. 英語学習の意識を高めるため英語教育CALLシステムの導入
4. サッカー・ラグビー場人工芝整備、その他体育施設の改修等
5. 講義棟実習室の改修、看護学科実習用機器更新、教育用シミュレータ整備 等



サッカー・ラグビー場

### 研究に関する事業

1. 先端的・学際的領域の基礎研究・臨床研究を推進し、国際的に高く評価される研究水準を目指すため、共同利用の研究設備を整備  
【共焦点レーザー顕微鏡システム、MALDI・TOF/MS用2次元顕微解析システム、動物実験施設超音波検査装置 等】
2. 「子どものこころの発達研究センター」による教育研究事業
3. 光可視化技術を用いた生体防御反応研究による高齢化社会の安心実現のための事業
4. 受託研究事業
  - ・分子イメージング研究プログラム「霊長類を中心とした疾患モデル動物を用いた分子イメージング研究に係る人材育成」
  - ・重点地域研究開発推進プログラム(研究開発資源活用型)「内視鏡で観察している患者体内の位置を教える手術支援情報表示装置の開発」
  - ・先端計測分析技術・機器開発事業「顕微質量分析装置の開発」 等



共焦点レーザー顕微鏡システム

### 診療に関する事業

1. 病院再整備事業  
現在の病院の南側に建設中で、地上8階、地下1階建て、病棟、手術部、集中治療部、輸血・細胞治療部、材料部、医療機器管理部等で構成されています。(新病棟へは平成21年12月26日(土)～12月28日(月)に移転する予定。)
2. 外来化学療法センター、緩和ケア体制の整備
3. 7:1看護体制整備のための看護師増員、診療助教の増員、医員の処遇改善、リハビリテーション部・感染対策関連検査業務等の充実
4. 癌診断治療システム、デジタルX線撮影診断システム、微細手術システム、呼吸管理システムの導入(借入金)
5. 洗浄・消毒・乾燥・滅菌システムの導入(運営費交付金)
6. 医療機器更新、手術用鋼製小物更新、放射線部外来改修、看護師ロッカールーム整備等
7. 患者サービスの改善(クレジットカードの導入等)
8. 受託事業
  - ・がん診療連携拠点病院機能強化事業
  - ・治験拠点病院活性化事業
  - ・静岡県難病医療拠点病院事業
  - ・大学病院連携型高度医療人養成推進事業 等



癌診断治療システム



病院再整備事業



基礎臨床研究棟耐震改修事業(第1期)

### その他の事業

1. 基礎臨床研究棟耐震改修事業(第1期)
2. 電子ジャーナルの整備
3. ネットワーク機器の更新

# セグメント情報（20年度）

損益計算書を【大学】と【病院】に区分したものです。

(単位:百万円)

費用	大学	病院	計
人件費	3,177	5,834	9,011
教育経費	246	7	253
研究経費	779	183	963
診療経費	—	7,343	7,343
教育研究支援経費	116	—	116
受託研究費等	667	201	868
一般管理費	294	59	353
財務費用	4	325	329
経常費用計	5,286	13,955	19,241
臨時損失	9	114	123
当期総利益	26	640	667
計	5,321	14,710	20,032

収益	大学	病院	計
運営費交付金収益	3,176	2,110	5,287
授業料等収益	649	—	649
附属病院収益	—	12,238	12,238
受託研究等収益	676	201	878
寄附金収益	372	21	393
間接経費収入	75	—	75
施設費収益	20	2	22
資産見返負債戻入	226	36	263
財務収益	10	—	10
財産貸付収入等	105	79	185
経常収益計	5,313	14,691	20,005
臨時利益	8	18	27
目的積立金取崩額	—	—	—
計	5,321	14,710	20,032

※ 端数処理については、百万円未満を切捨てております。合計についても円単位で計算したものを端数処理して百万円未満を切捨てております。

## 【国からの財政投入】

平成20年度本学では当期総利益667百万円(内訳下記記載)となりましたが、国からの運営費交付金(5,287百万円)等の交付を受けて成り立っていることを認識し、運営費交付金についても削減される傾向にあることから、今後も自己収入の増・経費の節減等に取り組んでいかなければなりません。

●**本学の経営努力による利益**(214百万円)教育・研究設備の整備、病院再整備に伴う診療機器等の整備等に充てる計画実現のため、附属病院収入その他の自己収入の増、効率的な事業の実施による経費削減等の経営努力により生じたものです。この利益は、実際に運営に利用できる現金の裏付けがある利益で、文部科学大臣の承認を受け、目的積立金として整理され翌年度以降に繰越使用することが可能となります。

●**現金の裏付けのない会計処理の構造的な要因による利益**(453百万円)国立大学法人会計基準に基づく一部の会計処理においては経営努力以外の要因で利益・損失が生じることがあります。具体的な内容としては、附属病院の建物や診療機器等の整備のための借入金の償還期間とその財源で取得した固定資産の減価償却期間のずれから生じた利益や自己収入(附属病院収入等)により取得した固定資産の取得額と減価償却の差額等が挙げられます。

※ 本レポートに関連する資料は、浜松医科大学ホームページにて開示しています。

・中期目標・中期計画、年度計画

[http://www.hama-med.ac.jp/university/report\\_open/com.html](http://www.hama-med.ac.jp/university/report_open/com.html)

・財務諸表、事業報告書等

[http://www.hama-med.ac.jp/university/report\\_open/financial\\_affairs.html#h20](http://www.hama-med.ac.jp/university/report_open/financial_affairs.html#h20)

財務レポートをお読みいただきありがとうございました。今後も皆様に財務情報をわかりやすく説明するよう努めてまいります。レポートに関する皆様からのご意見を賜りますよう、お願いいたします。



## 国立大学法人 浜松医科大学

財務レポート 2009(平成20事業年度)

発行:国立大学法人浜松医科大学会計課

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山1丁目20番1号

TEL.053-435-2111(代)

<http://www.hama-med.ac.jp>